

(様式 2)

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書 (参加学生)

平成 25 年 3 月 29 日

所属：教育学研究科英語教育専修 2 年

氏名：前崎龍平

研修先大学・機関名等 (国)：カロリガシュパル大学 (ハンガリー)、カレル大学 (チェコ)

在籍身分：研修生

渡航年月日：2013 年 2 月 28 日

帰国年月日：2013 年 3 月 14 日

○研修先での学習内容等

2 週間という短い研修期間の最初の目的地はハンガリーのブダペストでした。今回の研修には、秋田大学から 4 人の学生が参加していましたが、私たちが最初に行ったのは秋田 (または東北) の言語・文化についてのプレゼンテーションでした。プレゼンテーションをする機会は 2 回あり、一度目は日本語を第二専攻として学んでいる学生が対象だったので、私たちは英語で秋田を紹介し、二度目は日本語で話すことになりました。

カロリガシュパル大学では、日本語を専攻している学生の授業、日本語を第二専攻としている学生の授業、英語の授業を見学したり、現地の学生と一緒に授業に参加させていただいたりしました。学部生向けの英語の授業ではエッセイの書き方を教わりました。どのように書いていくことが学術的な文章を書くことにつながっていくのかということ授業の中でトレーニングし、文章を構成する能力を身につけさせる内容でした。これは秋田大学の英語の授業でも行われていますが、文章の書き方について再確認することができました。

日本語の授業では、私たちが学生のグループの中に入り、お互いの街を紹介



(様式 2)

し合ったり、将来の予定を話し合ったりしました。私たちが受けた授業の中に、グラフを分析する授業がありました。日本の様々な現象についてのグラフを分析し、データを見ての感想やなぜそのようなデータが現われるのかという理由を話し合うという内容の授業で、私が話をした学生が用意したデータの1つに日本人の映画館利用頻度に関するものがありました。そのグラフ1つから映画の値段の違いに驚き合ったり、映画のチケットを高いと思っている感覚は同じだったり、ハンガリー人の生活と日本人の生活を比べることができました。

研修の後半に向かったプラハでは、古典を読む授業に参加しました。源氏物語の原文をチェコ語に翻訳するという内容で、現代語訳を確認しチェコ語へ翻訳するのが非常に難しそうに見えた授業でした。学生たちは電子辞書を持っていたのですが、それは日本製のものでチェコ語で書かれている辞書ではありませんでした。彼らが日本語で書かれた古語辞典を使いながら、源氏物語を読んでいるところから、日本語の運用能力が高いことを実感しました。

○研修期間の生活面について

滞在中はほとんどの時間を現地の学生と過ごしていました。大学が休みの日は、街を案内してもらいながら街の歴史について教えてもらったり、日本語やハンガリー語、チェコ語を教え合ったりしていました。街を歩き回ったり、学生と話したりする時間が非常に多くて、毎日ホテルへ戻ると寝るだけという生活でしたが、現地の人と接する貴重なチャンスを逃すことなく過ごすことができました。大学の先生や学生たちは親切な方ばかりで、大学で学ぶ学生の実情や国の情勢など様々な情報を提供してくれました。短期の研修であったにも関わらず、それぞれの国で友人ができ、帰国後もメールや facebook を通じて連絡を取りあう仲になりました。

海外へ向かう時、多く
の人が現地の食生活に
ついて気にすると思い
ますが、ハンガリーもチ
ェコもほとんどの料理
が日本人の口に合っ
ていました。印象的だ
った食べ物はナマズの
スープです。真っ赤な
スープに浮かぶ白身の
ナマズは、見た目が不
気味で、すこし臭みもあ
りまし



たが、味は普通の白身魚で誰でも食べられる料理だったと思います。食事をするときには気を付けておかなければいけないのは、量の問題で、日本に比べて多いと感じることが何度かありました。

(様式 2)

前半の1週間を過ごしたブダペストは、秋田県に比べ交通機関が発達している印象を受けました。地下鉄、バス、路面電車などに乗る際に必要なチケットは共通のもので、10枚綴りの回数券で様々な場所へ行くことができました。回数券にはいくつか種類がありますが、それを利用することで電車やバスに乗るたびに乗車券を買う手間を省くことができました。プラハでは滞在中路面電車を利用しましたが、その乗車券は「どれくらいの時間乗車するのか」で値段が設定されていたと思います。日本の交通機関は、目的地までの距離で値段設定が行われていると思うので、乗車時間で値段が変わるという感覚は初めて感じるものでした。

○研修期間全般にわたる感想

それぞれの国の学生に共通していたことは、ほんの数年の学習期間で非常に多くの日本語を身につけ、話すことができているという点でした。現地で出会った多くの学生は、大学入学以前に日本語を学んでいなかったのに、かなり自然な会話をする力を持っていました。ハンガリーで日本語を学習している学生たちが、日本語スピーチコンテストで流暢な日本語のスピーチを披露している姿を見たとき



きは、大きなショックを受けました。このスピーチコンテストは、日本の外国語学習に何が足りないのかということ私に考えさせてくれるきっかけとなりました。

もう1つの共通点として、学生の勉強時間に注目しました。私が見る限りでは、ハンガリーの学生もチェコの学生も、大学の授業以外に勉強に費やす時間が多いと感じました。大学から出された宿題をしている場合もありますが、みずから日本の文学作品を読み進める学生もいます。中には既に日本語を教えるアルバイトをしている学生もいました。彼らの多くは、日本への留学や将来日本語を使った仕事に就くことを目標としていました。その目標を達成させようという意識はとても強いものに見え、外国語を身につけようという意志の貪欲さを感じられました。

○今後の勉強計画

私は春から私立高校の英語科の教員として働くことになっています。今後大学で研究を行う身分ではないのですが、就職後の自分に探究心を持たせてくれる海外研修となりました。今回

(様式2)

の研修では、日本語の授業と英語の授業を受けてきましたが、ハンガリー人やチェコ人にとってはどちらも外国語の授業です。外国語を教えるために、何が必要なのかよく考えさせられました。話すスピードはどれくらいか、どのような言葉を選んで話すのかということに気を配って日本語の授業を受けました。

今後はどのように外国語を教えるのかということを知りながら生活していくことになると思います。学生生活の最後に、今後一生役に立つであろう貴重な経験をさせてくださった大学の関係者の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

